

## 1. 自己紹介

1978年 宮城県仙台市生。

2001年 株式会社アスキーにて、PC 書中心の書籍取次営業職に携わる。

書店新刊配本システム、社内マーケティングシステム構築および、出版 EDI 導入に参加。

2003年 株式会社商業界入社。流通小売業専門誌における、取材及び編集。

副業で社内 HP の作成等。システム投資に理解が無い会社の説得に悩む。

2008年 株式会社アールケイ・システムズ入社。

流通小売業向け情報システム開発ベンダーにおいて、サポートエンジニア兼広報担当。

## 2. 「ユーザ企業の IT 戦略を考える」というテーマで思うこと、考えること。

(1) 何よりの問題は、同じ言葉で会話をできないことではないか？

言葉の定義があるようで無い。ひとつの言葉が、人によって違うものを指していることが多い。それを「定義書」という書面に書いて納得しようとしているが...

(2) ベンダー側の、ユーザに理解してもらおうという努力の欠如

ユーザは、IT に興味が無い。IT なんて勉強している暇が無い。仕事は IT 無しでも回っているのだから、IT なんて無くても問題ない。

IT ベンダーは、だからユーザはダメなんだ、と怒るが、では、ユーザにわかる言葉で IT を説明してきたのだろうか？

ユーザ、システムベンダーは、ともに、「分かり合える言葉」を作っていく必要がある。と同時に、ユーザも、ベンダーが提供するものの本質を見据え、何が必要なもので、何が必要でないものなのかを見極める必要がある。

## 3. 上記を踏まえた事例 ~ドキュメント、本当にこんなにいりますか？~

弊社では仕様書を用いず、お客さまと直接会話をして、それをそのままコーディングするという開発手法を採用している。プログラムはシェルスクリプトで書かれているから、ある程度読めばお客さまでも理解ができる。お客さまにもそれで納得していただいているケースが多い。

ところが、あるお客様から、すでに完成したアプリケーションについての、数十種類に及ぶ膨大な量のドキュメントの提出を求められた。

曰く「慣例だから」「社内で説得に必要なとなる資料であるから」「標準だから」。

もちろんファイルレイアウトの定義等、IF に関わるもの、スケジュール表などの必要最低限のドキュメントは弊社でも準備している。

ある程度のドキュメントは必要であろうが、結局読まれないであろう解説が必要なのか。果たして出来上がった家の設計図は、後々の修繕に用いる最低限のもの以外、必要なのだろうか？必要なのだとしたら、何を、どのくらい？

ぜひとも、皆様のドキュメントに対する考え方について、意見を伺いたく思う。

以上